

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トゥモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成22年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『目配り・気配り・心配り』を運営理念に掲げ、利用者が不安のない楽しい毎日を過ごしていただけるよう支援しています。
 近くには海岸があり、天気の良い日には徒歩や車椅子での散歩をしており、眺めが良く、ゆったりとした時間を過ごせます。
 隣りの敷地の畑で野菜を作り、新鮮な野菜を食材に利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの気持ちを大切に、代表者、管理者、職員は互いに協力し合い、柔軟に対応していくよう取り組んでいる。利用者のよりよい生活のためには家族の協力も不可欠と考え、良好な協力関係を築けるよう家族と一緒に行事等の実施にも取り組んでいる。協力病院との24時間の医療連携で、看取りの取り組みも積極的に進んでおり、今後も利用者や家族へ安心できるサービスの提供ができるよう、職員の研修にも力を入れていく事が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 憩の郷
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	山内 栄樹
評価完了日	平成22年 9月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の言葉は理解しているが、実践となるとまだ十分でないところもあり、意識して努力するよう努めている。介護者側の立場に立った言動であったかなど後々後悔することもあり「気配り」「心配り」の難しさを感じる。後悔したことを次にどう繋げていくかが課題である。</p> <p>(外部評価) ”利用者本位”を理念として掲げ、サービスの向上に努めている。代表者や管理者の思いが職員全員に伝わりやすいように、数年前に具体的な方針として五か条の理念を作り、機会あるごとに職員と共有している。また、各ユニットの入り口に掲示し、日々の実践につながるように意識づけを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者が複数での行動ではなく、単独での行動の援助の仕方に重点を置くよう切り替えていこうと思っている。日常的に交流の援助をすると人間的にも困難であるが、管理者や事務職員も協力しながら単独での交流援助も可能な限り行っている。</p> <p>(外部評価) 代表者や管理者は、地域の福祉事業に長年携わっており地域からの信頼も厚く、旧北条地域のグループホーム連絡会の世話もしている。以前に比べ地域行事への参加は減少したが、利用者と近所に買い物や散歩に出かけたり、地域の中学生の福祉体験の受け入れ等、関わりがなくならないよう努力している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年度は地域密着施設を主に対象として「徘徊マニュアル」を作成したが、今年度は「在宅」を主に対象として、北条地区のケアマネが集まり色々と検討をしているので、それにも協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に一回確実に開催している。市の職員・利用者家族・民生委員・職員が参加し、意見を聞いてサービスの向上に繋げるように努めている。職員は毎回2名ずつ参加するようにしている。これは後で報告を聞くだけではなく、直接参加することによって運営への参加意識を高めてもらうのがねらいである。	
			(外部評価) 市職員や包括支援センターの職員、民生委員、地域代表者、家族代表者等が出席し、利用者の状況や事業の説明、外部評価やサービスの公表調査の結果報告等をし、事業所のサービスの質について検討している。また、職員も交代で会議に参加し、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 年6回の運営推進会議は確実に開催してきており、協力関係は出来ていると思う。管理者は運営推進会議の場のみならず、日頃疑問に感じたことや分からないこと等は積極的に相談をしている。	
			(外部評価) 2か月ごとの運営推進会議には市職員か包括支援センターの職員が参加し意見交換や情報交換を行っている。また、地域のグループホーム連絡会を通じて、会議や研修等の協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 物理的な身体拘束はしていない。 職員が講習に行き、ミーティングで話し合いをしたり、気になる事があればミーティング以外でも話し合いを持つ。身体拘束をしないことを事業所の方針として掲げており、職員もその意識は備わって来ていると思う。	
			(外部評価) 事業所の方針である身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関等の施錠は行っていない。身体機能の低下により転倒の恐れがある利用者も多いが、見守りや声かけ等で対応している。身体拘束をしないケアについては、今後も定期的に研修を行う計画がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 時々上司に指摘されて(言葉での暴力)ハットする事がある。気をつけなければならないと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度に関する研修会に参加したり、参考文献も備えてあるが、現在成年後見制度を必要とする方がいない事もあって、実感が湧かない現状ではある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行っているつもりではある。 開設9年目を迎えるが、これまで家族さんより再度の説明を求められたことは無い。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。 家族の面会がある時には、管理者の方から要望等を尋ねる様心掛けている。また、年一回は家族会を開催し家族の意見を聞く機会を設けている。(家族会は敬老会の前に時間を設け、今年は“健康診断の在り方”について話し合った。 (外部評価) 家族との信頼関係を築き、連携を図れるよう家族会の開催や敬老会等の地域行事への参加等、情報交換や意見や要望を聞ける機会を設ける取り組みを積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングには代表者・管理者どちらかが極力参加して意見を聞くように努めている。 利用者も高齢になり、それに伴い身体能力の低下が目立つ方が増えてきており、職員の要望により電動ベッドへの切り替えやエアマットの購入等も徐々に進めている。</p> <p>(外部評価) 毎月のユニットごとの職員会議には代表者も参加し、職員の意見や提案を聞き可能な限り反映できるように努力している。また、職員が交代で運営推進会議に出席することにより、職員一人ひとりの運営に対する意識が向上している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 介護職の給与ベースが社会的に低い中で、一事業所の経営努力だけでは限界がある。国として介護報酬も含めた社会保障制度の見直しを求めたい気持ちである。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員には年1回以上は必ず研修を受けるよう指導している。研修のみならず資格を摂ることを積極的に勧めているし協力もしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 北条地区で行われているサービス調整会（旧北条地区の介護事業が全て参加対象）へ参加し、勉強会へも管理者・職員が参加している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 認知症があろうがなかろうが“人生の先輩”として敬意を払い話し掛け等を行っていくように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前は家族（本人さんが居れば本人さんも交えて）と面談し、要望等を聞くようにしている。非協力的な家族の場合は面会時に徐々に話す機会を設けたり、在宅時のケアマネージャーに協力をお願いする場合もある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の希望する支援に出来得る限り努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) まだ職員側の立場に立った見方・考え方が時々頭を持ち上げることがあり、注意を喚起することがある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 前項と大同小異である。 利用者と相対する時程ではないが、時に、気になる事がある。例えば、季節の変わり目に家族に衣類の持参を依頼するとき「〇〇を持って来て下さい」と相手の都合も聞かずに高飛車に言ってしまったり等がある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 出身地の近所の方が訪問して下さった時や家族さんの訪問があった場合には、ゆっくりと話せる様に居室へ案内をさせて頂き、帰られる時は本人さんと一緒に玄関までお見送りをする様に努めている。また、毎月ホームでの生活状況や健康近況報告を家族さんへ送付している。 (外部評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しており、利用者の感謝の言葉や表情の変化に、職員も支援の意義を感じている。また入居期間の長い利用者も増えており、ユニット間の交流も新しい馴染みの人や場所として実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 中には、どうしても性格の合わない利用者さん同士もあり、そんなときはプライバシー等を尊重しながら職員が間に入るなどしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や自宅復帰などで退所する場合などは、入所前に関わっていたケアマネジャーに報告し、サービスの提供が途切れないようにフォローしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護計画の作成時には「出来ること、出来ないことシート」を利用し思いや意向の把握に努めている。何気ない会話の中にも本人さんの思いが込められている場合もあり、忙しい忙しいで1日が終わってしまわないように、利用者の方との会話も重視している。（面会時に家族から情報を聞き出すよう努めている） (外部評価) 利用者の自立心を大切にし、できることできないことの把握に努めている。毎月のミーティングでみんなで話し合っって情報を共有している。また、家族参加の行事では担当者が一緒に席に座って家族とよく話し、情報交換を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に聞き取れなかった部分等は家族の訪問があった時などに徐々に伺ったとして、情報収集に努め、利用者さんに合ったサービスの提供が出来ているか検討している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の状況について、スタッフ同士でその日その日の様子を伝え合い、変化があれば話し合いを持つように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティングで3ヶ月に1回(家族から聞いた意見なども考えながら)ケアプランの見直しをスタッフ全員で話し合い作成している。 (外部評価) 個別記録の様式を工夫し、介護計画の実施状況が把握できるように努めている。また、記録を元に毎月のモニタリングを行うことで次の計画に反映できるよう工夫している。計画の作成には職員全員が関わられるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録(日報)に、その日その日の利用者さんの様子や、特別な事があれば記入し、ミーティングでもスタッフ全員で話し合っている。(即対応が必要でミーティングまで時間的に待てないときは伝言ノートを利用し、情報の共有に努めている。)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 縫い物が好きな方の希望で、在宅時に行きつけであった布屋さんへ、また、近くの神社へ毎日行っていた利用者さんには時々同行しては近所の方と話したりと柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの施設より夏祭りの案内があれば、希望される方をお連れし、その施設の方や近所の方と触れ合う機会等の支援をしている。しかし、利用者さんも心身機能が低下してきて来ており、近年はごく限られた利用者さんに固定化しつつある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人さんや家族の希望されるかかりつけ医がある場合 は、そちらへの受診支援を行い、特にない場合は同意 を得て、ホームの協力病院の訪問診療や受診を行って いる。 (外部評価) 地域の病院が協力病院であり、ほとんどの利用者が受 診をしている。他の医療機関を受診する場合も事業所 で対応している。家族会で健康診断の実施についても 協議し、実施に向けて検討中である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 変化に気付いた場合には、看護職員に相談し協力病院 の看護師や医師に相談し、その指示に従っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供は積極的に行っている。また、入院 後は可能な限り訪問をして、本人さんを励ますと共 に、病院の相談員・看護師との更なる情報支援に努め ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時や終末期については、家族・主治医・管 理者・職員として話し合う機会を設定して、対応方針 の共有化に努めている。 (外部評価) 開設時から、地域の病院と医療連携を整え、利用者や 家族と十分話し合ったうえで看取りを実施している。 夜間の緊急時に代表者がホームにすぐに来る等、体制 も整備している。看護師が常勤し看護記録にて全利用 者の健康状態を把握し介護職員と協力して支援に取り 組んでいる。	開設時には、協力医療機関の医師を招いて看取りにつ いての講演等実施したこともあるが、新しい職員も増 え不安を抱えて終末ケアに当たっている職員もいる。 利用者や家族が安心して終末を迎えることができるよ う、今後の研修等の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 新任職員以外は応急手当の訓練は受けているが、今後は定期的な訓練の実施を考えている。また、救急車要請に至った場合には、緊急対応マニュアルを作成しているが、実際に必要な書類はすぐに持ち出せるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを整備している。 火災時には、火災通報装置により消防署以外にもホーム近くの職員や隣りのご家族にも緊急通報連絡が入るように協力をしていただいている。 (外部評価) 運営推進会議で地域の方の協力をお願いし、避難訓練にも参加してもらっている。今年度中にはスプリンクラーの設置を行う予定になっている。定期的な避難訓練とは別に、事業所の自主訓練や研修も行い、利用者の安全で安心な生活を守る為に災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重した対応を心掛けるよう管理者より常々指導されており、その様に努力しているつもりであるが、つい援助側に立った言動が出てしまうことがあり後悔することもある。 (外部評価) プライバシーの保護の取り組みに関する研修を年1回は受けている。優しい言葉遣いや態度で接する事を理念にし、管理者は機会があるごとに、職員と話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示が出来ない方の思いをくみ取り、それを支援に繋げていくことが出来ていないかもしれない。特にこの分野については難しさを感じているスタッフも多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) そのときの状況により、ゆっくりとその人のペースに合わせてあげられる時もあるが、常にその人の希望やペースに合わせての支援は出来かねていると思う。一人ひとりのペースに合わせた支援に努めるよう努力はしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着る服を選んでもらったり、行きつけの理美容院がある方にはその希望に沿って支援し満足されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個別に食事形態を変えておいしくいただけるようにして、職員も同じテーブルで同じ食事をいただいている。明るく楽しく食べる雰囲気作りに欠けているので、声掛けをしたりBGMを流すこともたまにあるが、まだ努力が足りないかもしれない。 (外部評価) メニューは利用者の好みを把握している各ユニットの職員が立てている。2～3日おきに職員が買い物に行き、新鮮な魚や季節の野菜、果物を購入している。外出行事のときはお弁当を用意したり、毎年寿司職人に来てもらって食べたりと、食事を楽しむ事を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人に合った食事形態にしている。きざみ食、ミキサー食の方がおられるが、特にきざみ食は口の中でばらけないようにつなぎとなる物を入れるようにしている。 個別に食事摂取量をチェックしており、水分量も十分足りるよう工夫して摂取していただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアを行い感染予防に努めているが、清潔保持の出来る方、出来ない方、それぞれに合わせた援助が不十分な時がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録を付け、個々の排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄ができるよう声掛け支援・誘導支援を行っている。声掛け支援の際、プライバシーを尊重した声掛けを行うよう指導している。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じてトイレ誘導等をしているが、利用者の重度化に伴いオムツの使用者が増え取り組みが難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 献立には毎食事に汁物をつけ、繊維質を多く含んだ野菜類や乳製品を取り入れ、毎朝の体操、定期的なトイレ誘導により規則正しい排泄に心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合う様に、入浴は日曜以外毎日実施しており（1日3～4人を目処に）、週に三回は入浴できるように配慮している。	
			(外部評価) 週3回を基本とし、利用者の希望を聞きながら入浴支援を行っている。利用者の体調を考慮しながら、シャワー浴等も利用し安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて、昼間リビング等で居眠りの多い方は自室で一時間程度の休息を取ってもらう方もいる。（これによる昼夜逆転はない）	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が薬の内容を理解しており、医師の指示通り服薬できるよう支援している。薬に変更があったときは、連絡簿を活用して周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の皆さん全員への対応は難しいが、身体の元気な方で特に役割を希望される方には配慮している（洗濯・歌・ドライブ等）	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に添った対応は出来かねるが、可能な範囲での買い物・美容室・散歩・ドライブなどの支援をしている。家族の方と美術館や外食に出かけたりしている。本人・家族の希望があればいつでも連絡を取り支援している。 (外部評価) ユニット全員が一緒に外出する事は難しくなってきたので、個別に時間をとって近所への散歩や買い物に行く等、日常的に外出できるように取り組んでいる。外出時の対応についても、安全に支援できるようヒヤリハット等の報告書で事例を検討し、事故や怪我が無いように、情報を共有している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心できる方には持ってもらっているが、逆にお金を持つことで不安を訴える方もおられるため、そういう方は事務所の金庫にて管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話等の希望があればホームの電話を使用しお話しする機会を作っている。切手を購入し、友人や家族へ手紙を出される方の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングと台所に仕切りがなく、また、職員詰所もドアやカーテンがあるものの滅多に閉めることはないため開放感がある。リビングには季節に応じて花等を飾っている。玄関や庭には花を植えたり、その花を見たい利用者のためにベンチを設置している。</p> <p>(外部評価) 車いすの利用者も楽に移動できるように廊下や居間も十分な広さが確保されている。台所はオープンで、居間でテレビを見ながら、職員が食事を作っている様子を見たり、話をしたりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室以外にも玄関付近にソファや本棚を設置しており、リビング以外にも1人になれる空間作りに努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 危険なものや、衛生上好ましくないもの以外の持込は特に制限しておらず、なるべく家で使っていた家具や日用品を持参していただいている。居室は居住スペース以外に広めの押入れがあり、圧迫感はなく居心地は良い方だと思う。</p> <p>(外部評価) ユニットによって多少様子が違うが、本人の持ち物が部屋に配置しており、利用者が居心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 安全に暮らせるよう段差の無い空間、必要な場所への手すり設置、ソファの設置場所等に配慮して、一人ひとり分かることや出来ることをしていただき、自立して暮らせるよう支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トゥモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成22年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『目配り・気配り・心配り』を運営理念に掲げ、利用者が不安のない楽しい毎日を過ごしていただけるよう支援しています。
 近くには海岸があり、天気の良い日には徒歩や車椅子での散歩をしており、眺めが良く、ゆったりとした時間を過ごせます。
 隣りの敷地の畑で野菜を作り、新鮮な野菜を食材に利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの気持ちを大切に、代表者、管理者、職員は互いに協力し合い、柔軟に対応していくよう取り組んでいる。利用者のよりよい生活のためには家族の協力も不可欠と考え、良好な協力関係を築けるよう家族と一緒に行事等の実施にも取り組んでいる。協力病院との24時間の医療連携で、看取りの取り組みも積極的に進んでおり、今後も利用者や家族へ安心できるサービスの提供ができるよう、職員の研修にも力を入れていく事が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 山内 栄樹

評価完了日 平成 22 年 9 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念の言葉は理解しているが、実践となるとまだ十分でないところもあり、意識して努力するよう努めている。介護者側の立場に立った言動であったかなど後々後悔することもあり「気配り」「心配り」の難しさを感じる。後悔したことを次にどう繋げていくかが課題である。</p> <p>(外部評価) ”利用者本位”を理念として掲げ、サービスの向上に努めている。代表者や管理者の思いが職員全員に伝わりやすいように、数年前に具体的な方針として五か条の理念を作り、機会あるごとに職員と共有している。また、各ユニットの入り口に掲示し、日々の実践につながるように意識づけを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者が複数での行動ではなく、単独での行動の援助の仕方に重点を置くよう切り替えていこうと思っている。日常的に交流の援助をするとすると人員的にも困難であるが、管理者や事務職員も協力しながら単独での交流援助も可能な限り行っている。</p> <p>(外部評価) 代表者や管理者は、地域の福祉事業に長年携わっており地域からの信頼も厚く、旧北条地域のグループホーム連絡会の世話もしている。以前に比べ地域行事への参加は減少したが、利用者と近所に買い物や散歩に出かけたり、地域の中学生の福祉体験の受け入れ等、関わりがなくならないよう努力している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年度は地域密着施設を主に対象として「徘徊マニュアル」を作成したが、今年度は「在宅」を主に対象として、北条地区のケアマネが集まり色々と検討をしているので、それにも協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>2ヵ月に一回確実に開催している。市の職員・利用者家族・民生委員・職員が参加し、意見を聞いてサービスの向上に繋げるように努めている。職員は毎回2名ずつ参加するようにしている。これは後で報告を聞くだけではなく、直接参加することによって運営への参加意識を高めてもらうのがねらいである。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市職員や包括支援センターの職員、民生委員、地域代表者、家族代表者等が出席し、利用者の状況や事業の説明、外部評価やサービスの公表調査の結果報告等をし、事業所のサービスの質について検討している。また、職員も交代で会議に参加し、サービスの質の向上につなげている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>年6回の運営推進会議は確実に開催してきており、協力関係は出来ていると思う。管理者は運営推進会議の場のみならず、日頃疑問に感じたことや分からないこと等は積極的に相談をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2か月ごとの運営推進会議には市職員か包括支援センターの職員が参加し意見交換や情報交換を行っている。また、地域のグループホーム連絡会を通じて、会議や研修等の協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は勉強会により周知し理解し身体拘束をしない事を事業所の方針として掲げているが、どうしても止むを得ない場合、家族の方に理解を求めているようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の方針である身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関等の施錠は行っていない。身体機能の低下により転倒の恐れがある利用者も多いが、見守りや声かけ等で対応している。身体拘束をしないケアについては、今後も定期的に研修を行う計画がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員各々は各所での研修受講等により学ぶ機会は持っている。ただ見過ごされがちな言葉での虐待には注意を払いたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 関連資料等で見る程度で、活用・支援できているかどうかは分からない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行っているつもりではある。開設9年目を迎えるが、これまで家族さんより再度の説明を求められたことは無い。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。 家族の面会がある時には、管理者の方から要望等を尋ねる様心掛けている。また、年一回は家族会を開催し家族の意見を聞く機会を設けている。(家族会は敬老会の前に時間を設け、今年は“健康診断の在り方”について話し合った。 (外部評価) 家族との信頼関係を築き、連携を図れるよう家族会の開催や敬老会等の地域行事への参加等、情報交換や意見や要望を聞ける機会を設ける取り組みを積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングには代表者・管理者どちらかが極力参加して意見を聞くように努めている。 利用者も高齢になり、それに伴い身体能力の低下が目立つ方が増えてきており、職員の要望により電動ベッドへの切り替えやエアマットの購入等も徐々に進めている。</p> <p>(外部評価) 毎月のユニットごとの職員会議には代表者も参加し、職員の意見や提案を聞き可能な限り反映できるように努力している。また、職員が交代で運営推進会議に出席することにより、職員一人ひとりの運営に対する意識が向上している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 介護職の給与ベースが社会的に低い中で、一事業所の経営努力だけでは限界がある。国として介護報酬も含めた社会保障制度の見直しを求めたい気持ちである。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修のみならず資格を摂ることを積極的に勧めているし協力もしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 北条地区で行われているサービス調整会（旧北条地区の介護事業が全て参加対象）へ参加し、勉強会へも管理者・職員が参加している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 認知症があろうがなかろうが“人生の先輩”として敬意を払い話し掛け等を行っていくように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前は家族（本人さんが居れば本人さんも交えて）と面談し、要望等を聞くようにしている。非協力的な家族の場合は面会時に徐々に話す機会を設けたり、在宅時のケアマネージャーに協力をお願いする場合もある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何を求めているのかを見極める努力はしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 喜怒哀楽を共にする。いろいろ工夫しながら本来の姿にたどり着く努力はしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの性格もあり、オープンな家族さんとは築けるかもしれないが、あまり声を発しない家族さんは難しいところもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 出かけていく場面をつくれている時期もあったが、体調が安定しなかったり認知症が進んできたりして難しい利用者さんも多くなっている。 (外部評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しており、利用者の感謝の言葉や表情の変化に、職員も支援の意義を感じている。また入居期間の長い利用者も増えており、ユニット間の交流も新しい馴染みの人や場所として実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 少ない人数なのでみんなが馴染みの顔見知りとなっており、話が理解し合える人は会話をされたりお互いを気遣っておられるが、耳が遠い方は孤立気味になるので出来るだけ話しかけるよう努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や自宅復帰などで退所する場合などは、入所前に関わっていたケアマネジャーに報告し、サービスの提供が途切れないようにフォローしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護計画の作成時には「出来ること、出来ないことシート」を利用し思いや意向の把握に努めている。何気ない会話の中にも本人さんの思いが込められている場合もあり、忙しい忙しいで1日が終わってしまわないように、利用者の方との会話も重視している。（面会時に家族から情報を聞き出すよう努めている） (外部評価) 利用者の自立心を大切にし、できることできないことの把握に努めている。毎月のミーティングでみんなで話し合っって情報を共有している。また、家族参加の行事では担当者が一緒に席に座って家族とよく話し、情報交換を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に聞き取れなかった部分等は家族の訪問があった時などに徐々に伺ったりして情報収集に努め、利用者さんに合ったサービスの提供が出来ているか検討している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の状況について、スタッフ同士でその日その日の様子を伝え合い、変化があれば話し合いを持つように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティングで3ヶ月に1回(家族から聞いた意見なども考えながら)ケアプランの見直しをスタッフ全員で話し合い作成している。 (外部評価) 個別記録の様式を工夫し、介護計画の実施状況が把握できるように努めている。また、記録を元に毎月のモニタリングを行うことで次の計画に反映できるよう工夫している。計画の作成には職員全員が関わられるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録(日報)に、その日その日の利用者さんの様子や、特別な事があれば記入し、ミーティングでもスタッフ全員で話し合っている。(即対応が必要でミーティングまで時間的に待てないときは伝言ノートを利用し、情報の共有に努めている。)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 縫い物が好きな方の希望で、在宅時に行きつけであった布屋さんへ、また、近くの神社へ毎日行っていた利用者さんには時々同行しては近所の方と話したりと柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの施設より夏祭りの案内があれば、希望される方をお連れし、その施設の方や近所の方と触れ合う機会等の支援をしている。しかし、利用者さんも心身機能が低下してきて来ており、近年はごく限られた利用者さんに固定化しつつある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人さんや家族の希望されるかかりつけ医がある場合 は、そちらへの受診支援を行い、特にない場合は同意 を得て、ホームの協力病院の訪問診療や受診を行って いる。</p> <p>(外部評価) 地域の病院が協力病院であり、ほとんどの利用者が受 診をしている。他の医療機関を受診する場合も事業所 で対応している。家族会で健康診断の実施についても 協議し、実施に向けて検討中である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 変化に気付いた場合には、看護職員に相談し協力病院 の看護師や医師に相談し、その指示に従っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時の情報提供は積極的に行っている。また、入院 後は可能な限り訪問をして、本人さんを励ますと共 に、病院の相談員・看護師との更なる情報支援に努め ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した時や終末期については、家族・主治医・管 理者・職員として話し合う機会を設定して、対応方針 の共有化に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時から、地域の病院と医療連携を整え、利用者や 家族と十分話し合ったうえで看取りを実施している。 夜間の緊急時に代表者がホームにすぐに来る等、体制 も整備している。看護師が常勤し看護記録にて全利用 者の健康状態を把握し介護職員と協力して支援に取り 組んでいる。</p>	<p>開設時には、協力医療機関の医師を招いて看取りにつ いての講演等実施したこともあるが、新しい職員も増 え不安を抱えて終末ケアに当たっている職員もいる。 利用者や家族が安心して終末を迎えることができるよ う、今後の研修等の取り組みを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 新任職員以外は応急手当の訓練は受けているが、今後は定期的な訓練の実施を考えている。また、救急車要請に至った場合には、緊急対応マニュアルを作成しているが、実際に必要な書類はすぐに持ち出せるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを整備している。 火災時には、火災通報装置により消防署以外にもホーム近くの職員や隣りのご家族にも緊急通報連絡が入るように協力をしていただいている。 (外部評価) 運営推進会議で地域の方の協力をお願いし、避難訓練にも参加してもらっている。今年度中にはスプリンクラーの設置を行う予定になっている。定期的な避難訓練とは別に、事業所の自主訓練や研修も行い、利用者の安全で安心な生活を守る為に災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重した対応を心掛けるよう管理者より常々指導されており、その様に努力しているつもりであるが、つい援助側に立った言動が出てしまうことがあり後悔することもある。 (外部評価) プライバシーの保護の取り組みに関する研修を年1回は受けている。優しい言葉遣いや態度で接する事を理念にし、管理者は機会があるごとに、職員と話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定をするような場が少ないが、思いを表せる人にはどうしたいか聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その時の状況により、ゆっくりとその人のペースに合わせてあげられる時もあるが、希望に沿った支援には少し遠いと思われる時も多々ある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着る服を選んでもらったり、おしゃれ、身だしなみがわかり訴えがある人には希望に沿って支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みは気に掛けているが、一緒に何かをすることはとても少ない。出来る状況ではないと決め付けているところがあるかもしれない。 (外部評価) メニューは利用者の好みを把握している各ユニットの職員が立てている。2～3日おきに職員が買い物に行き、新鮮な魚や季節の野菜、果物を購入している。外出行事のときはお弁当を用意したり、毎年寿司職人来てもらって食べたりと、食事を楽しむ事を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事摂取量を記録している。全体的な栄養バランスや水分量はほぼ良い状態だと思っているが、水分量が少なく気に掛かる人もいるので、研修等で学んで試みている状態である。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの能力に合わせて援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録を付け、個々の排泄パターンを把握し、声掛け支援・誘導支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じてトイレ誘導等をしているが、利用者の重度化に伴いオムツの使用者が増え取り組みが難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然に排便できるよう乳製品や牛乳などを摂取していただき、水分補給も1日二回行い、摂取量の少ない方には声掛けをするなど支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合う様に、入浴は日曜以外毎日実施しており（1日3～4人を目処に）、週に三回は入浴できるように配慮している。	
			(外部評価) 週3回を基本とし、利用者の希望を聞きながら入浴支援を行っている。利用者の体調を考慮しながら、シャワー浴等も利用し安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間ゆっくり眠れるよう日中は活動してもらうよう促したり、昼寝を居室でしていただく等、個々の生活習慣を整えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容表を作成し、指示された処方内容を確認している。服薬の支援と、日々の症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に支援しているが、時間や内容が不十分であるかもしれない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 戸外の気温や体調等を考慮しながら、希望や働きかけにより外出支援に努めている。	
			(外部評価) ユニット全員が一緒に外出する事は難しくなってきたので、個別に時間をとって近所への散歩や買い物に行く等、日常的に外出できるように取り組んでいる。外出時の対応についても、安全に支援できるようヒヤリハット等の報告書で事例を検討し、事故や怪我が無いように、情報を共有している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心できる方には持ってもらっているが、逆にお金を持つことで不安を訴える方もおられるため、そういう方は事務所の金庫にて管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 楽しく交流がもてるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングと台所に仕切りがなく、また、職員詰所もドアやカーテンがあるものの滅多に閉めることはないため開放感がある。リビングには季節に応じて花等を飾っている。玄関や庭には花を植えたり、その花を見たい利用者のためにベンチを設置している。</p> <p>(外部評価) 車いすの利用者も楽に移動できるように廊下や居間も十分な広さが確保されている。台所はオープンで、居間でテレビを見ながら、職員が食事を作っている様子を見たり、話をしたりすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居室以外にも玄関付近にソファや本棚を設置しており、リビング以外にも1人になれる空間作りに努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 危険なものや、衛生上好ましくないもの以外の持込は特に制限しておらず、なるべく家で使っていた家具や日用品を持参していただいている。居室は居住スペース以外に広めの押入れがあり、圧迫感はなく居心地は良い方だと思う。</p> <p>(外部評価) ユニットによって多少様子が違うが、本人の持ち物が部屋に配置しており、利用者が居心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自分で車椅子を操作できる方もおられるが、危険性を考慮して廊下には物を置かないよう配慮している。</p>	